

3 リスクアセスメントの目的と効果

イ. リスクアセスメントの目的

リスクアセスメントの目的は、職場にあるリスクの現状とそれに対する既存対策の適否とを知って、「災害に至る危険と健康障害の要因を可能な限り取り除いて、作業に関連する災害と健康障害が生じないように確保して、快適な職場にすること」にあります。

現にあるリスクによって、実際に災害や健康障害が起こったり、生産が中断したり、設備が損傷を受けたり、また、事業場周辺の環境や公衆にまで災害が及ぶならば、被災の苦痛だけでなく、事業活動にも大きな影響が及びます。事業者は、その管理する事業場のリスクアセスメントを的確に行う必要があります。有効なリスクアセスメントによってその責任を果たすとともに、事業の円滑な運営を行うことができます。一方従業員は、可能な範囲でリスクアセスメントを行い、災害発生や健康障害の発生のおそれのある状況を把握し、指摘する責務を負うと同時に、労働災害防止対策を遵守する必要があります。

このように、安全衛生活動を担当者に任せきりにするのではなく、経営トップのリーダーシップの下、職場の各級管理者から現場の作業員までが参加してリスクアセスメントを計画的に実施することにより、個人の経験と能力のみに依存せず、事業場の安全衛生管理を組織的・継続的に実施していくことができます。これが、平成11年4月に労働省（現厚生労働省）から指針が示された「労働安全衛生マネジメントシステム」の考え方であり、その中核をなすのがリスクアセスメントです。労働安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメントの関係を12頁（図1-7）に示します。

ロ. リスクアセスメントの効果

リスクアセスメントを有効に実施することにより、次のような効果が期待できます。

- ① 従来行ってきた事後処置としての同種災害の再発防止では対処できなかった労働災害や健康障害を、未然に防止する対策を講ずることができます。
- ② 職場に存在するリスクの洗い出しとそのリスクの見積りを系統的に行うことにより次の諸点が期待されます。

- ・ 職場のリスクが明確になる。
- ・ 職場のリスクに対する認識を管理者を含め、職場全体で共有できる。
- ・ 安全対策について、合理的な方法で優先順位を決めることができる。
- ・ 残されたリスクについて「守るべき決め事」の理由が明確になる。
- ・ 職場全員が参加することにより「危険」に対する感受性が高まる。

- ③ リスクの評価・管理ノウハウが継承されます。

また、平成15年11月に厚生労働省が行った大規模製造事業場に対する自主点検結果においても、危険性又は有害性の調査（リスクアセスメント）とそれに基づく低減措置の手法を導入している事業場は、導入していない事業場と比較すると、災害の発生率は相当に低いという結果が得られています。